

令和8年3月31日
さぎそう学舎
世田谷区立九品仏小学校
校長 笛木 毅

令和7年度に向けた改善方策について

学校関係者評価委員会の皆様には、「学校関係者評価アンケート(生徒・保護者・地域・教職員)」などのデータを基に分析・議論を重ねていただき誠にありがとうございました。

九品仏小学校は、この「学校関係者評価委員会報告書」を真摯に受け止め、ご提出いただいた内容に対し、以下のように改善して参ります。

1 あいさつの充実

本校では、これまで長年にわたりあいさつの指導に力を入れてきました。朝のあいさつにとどまらず、「ありがとう」「こんにちは」「さようなら」など、日常のさまざまな場面で言葉を交わすことができる児童の育成を、低学年の段階から継続して取り組んできました。

しかしながら、今年度はややあいさつの声が少なくなっているように感じられます。あいさつは、人と人をつなぐ大切なコミュニケーションの一つです。

そこで改めて、高学年の児童や教職員が率先してあいさつの手本となり、学校全体にあいさつの輪を広げていきたいと考えています。あいさつの声があふれる、温かく活気ある学校づくりをめざしてまいります。

2 実技・体験活動の充実

体育科や音楽科、図画工作科、家庭科などの実技や体験的な学びを重視し、体を動かしたり、表現したりする活動を通して、子どもたちの可能性を引き続き広げていきます。

本校の児童はとても素直であり、一つ一つの活動に丁寧に取り組む力をもっています。一方で、新しいことにチャレンジすることにやや控えめな面も見られます。しかし、失敗の中には多くの学びが含まれています。

そこで、全校朝会や各授業において、教職員自身のチャレンジした経験や、そこから得た学びを積極的に伝えていきます。こうした取組を通して、教育活動全体で子どもたちの「チャレンジする心」を育てていきたいと考えています。